

小笠原群島父島に生息する絶滅危惧種シロワニ *Carcharias taurus* に関する 保全の基礎資料となる回遊生態調査

シロワニ繁殖協議会は、2018年より、公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)の野生動物保護募金の助成を受け、小笠原諸島に生息するシロワニの個体識別調査を行ってきました。2020年にはアメリカジョージア水族館の機材提供と技術協力を得て、父島でシロワニ5個体を捕獲と衛星発信機と音波発信器を装着し、国内初の第1回シロワニ回遊生態調査を行っています。2023年度第1回シロワニ回遊生態調査で得られた貴重なデータをもとに、北海道大学の協力を受け、3か年でより精度の高い回遊生態調査目指し、第2回シロワニ捕獲作業を行いました。またJAZAの保全を目的とした新規事業としても承認され、2024年2月には現地ダイビングショップのメンバーも加わり、積極的に調査を進めるため、NPO法人小笠原シロワニ保全研究会が設立されました。

【活動背景】

シロワニは絶滅危惧種として世界的に保全が強く勧められている種です。これまで、アメリカやオーストラリアでの先行調査報告はいくつか存在していますが、どれも海洋島という特殊な地理的条件下にある小笠原群島とは異なる大陸棚という環境での調査結果です。そのため、小笠原群島に生息するシロワニは、独特な繁殖生態を持つ系群である可能性が高く、その生態解明と個体識別は保全計画上重要な意味を持つと考えられています。



右:2023年11月23日・メス・全長260cm

【活動目的】

今回の活動では、シロワニに装着した音波発信機によって生息場所を特定するほか、装着個体の詳細な移動経路や滞在期間の記録を行うこと、また生息数推定を行うために必要な、シロワニ個体識別登録の継続が目的でした。

NPO法人小笠原シロワニ保全研究会



左:シロワニ水中撮影(弟島鹿浜)・右:超音波受信機(万作水玉湾水深20m)

【助成金の用途・活動結果】

助成金は主に、調査費用に活用していただきました。島周辺へ14台の超音波受信機の設置により、シロワニの通過状況の把握が可能になりました。また、個体への音波発信機と行動記録計の装着も成功し、今後の継続的な調査と保全活動が期待されています。

【団体からのメッセージ】

2023年度助成頂いたおかげで、小笠原父島でシロワニ9個体(オス4・メス5)を捕獲し、音波発信機を全個体に、行動記録計を7個体への装着に成功しました。音波発信機の信号を受信するため、父島周囲14か所に受信機も予定どおり設置できました。2024年~2027年までの3か年で計画している小笠原シロワニ個体群の回遊生態調査と生息数推定調査の基礎を築くことが出来ましたので、今後も調査を続けてまいります。